

## 1 研究主題

豊かな心と活力(たくましさ)を育む学び合いの創造  
～「深い学びを実現する 道徳科の授業づくり」～

## 2 主題設定の理由

本校児童は、明るく素直で活発である。運動会や音楽発表会では、積極的な姿勢で意欲をもって取り組む児童が多い。しかし、その反面、自ら課題を見つけて自分の目標を設定し、ねばり強く最後まで取り組む姿勢が乏しい。そのため、達成感や成就感を味わう経験が乏しく、自己肯定感や自己有用感を得られないまま過ごす児童も多い。また、家庭教育が十分機能していない状況や、家庭の考え方の多様化で、自己中心的で実践を伴わない児童、規範意識が薄い児童が多く見られる。また、規範意識の希薄さから、新しいことになかなか挑戦できず、始めでも簡単にあきらめてしまったり、些細なことで不安感をもち、不登校となったりする場面もみられる。

以上のことから、児童が主体的に学び合える環境の中で自尊感情を高めていくことで、よりよい自己の育成をめざすことができると考え、研究主題を設定した。

## 3 研究の目的

自分自身や相手、集団や社会、生命や自然とのかかわりを通して、自分を肯定的に認め、自分に自信をもち、自他の「よさ」を共有し、たくましく生きぬく力を育てることを重点目標とする本校の道徳教育の工夫と改善を行う。道徳性を養うための学習活動に重点を置き、その充実に取り組む。

## 4 研究の仮説

- (1)道徳科と学校行事、各教科等とを関連させた学習「咲かせよう心の花」を構想し、カリキュラムマネジメントを行い、教科横断的な学習を取り入れることで道徳性を養うことができるだろう。
- (2)児童の実態に即した教材の選定や道徳ノートへの教師のコメント、子ども主体の授業の工夫を進めることで、各教科等においても教材分析が深まり授業改善につながり、そのことにより児童の学力向上や自己肯定感も育つであろう。

## 5 研究の内容

仮説(1)について

1. 学習指導要領を熟読し、自尊感情の育成と道徳教育との関連を明らかにする。
2. 授業の前後にアンケートを実施し、児童の変容を分析し授業に生かす。
3. 教育活動全体を通して、児童の自尊感情を高める。

仮説(2)について

1. 道徳科における「深い学び」について研修を深める。
2. 児童が自ら課題設定できるように導入を工夫し、多面的・多角的に考えられるよう対話を取り入れた授業を展開する
3. 児童の発言を中心に授業が進められるように、教師の授業のコーディネート力を高める。

## 道徳性を養うための学習活動

・以下のことが相互に関わり合い、深め合うことによって道徳性を養うことにつながる。

### 1. 道徳的諸価値について理解する

- 価値理解…内容項目を、人間としてよりよく生きる上で大切なことであると理解すること
- 人間理解…道徳的価値は大切であってもなかなか実現することができない人間の弱さなども理解すること
- 他者理解…道徳的価値を実現したり、実現できなかったりする場合の感じ方、考え方は一つではない、多様であるということを前提として理解すること

### 2. 自己を見つめる

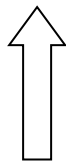
### 3. 物事を(広い視野から)多面的・多角的に考える

### 4. 自己(人間として)の生き方について考えを深める

## 道徳科における「主体的な学び」

・児童がねらいとする道徳的価値について課題意識をもち、自分の生活を見つめながら他者と議論することで、道徳的価値についての理解を深め、自己の生き方について考えを深める学習。

・理解した道徳的価値から自分の生活を振り返り自らの成長を実感したり、これからの課題や目標を見付け、その結果を日常生活の行動や習慣に結びつけたりしていくもの。



児童が道徳的な問題を自分事として捉え、道徳的価値に関わる自分の考え方、感じ方をより深めることが大事。

### 「ねらい・内容・方法」の一体化

- 道徳的価値に対する児童の実態の把握
- 学習指導要領の熟読
- 教材に対する児童の感じ方や多様な考えを予測
- 発問、学習過程の工夫

④

<読み物教材の登場人物への自我関与が中心の学習において>

※登場人物に自分を投影して、その判断や心情を考えることにより、道徳的価値の理解を深めることができる。

<問題解決的な学習において>

※道徳的価値を実現するための資質・能力を養うことができる。

<道徳的行為に関する体験的な学習において>

※問題場面を実際に体験してみること、また、それに対して自分ならどういう行動をとるかという問題解決のための役割演技を通して、道徳的価値を実現するための資質・能力を養うことができる。